

故郷で初個展

古里の「風・音・光・
香り」テーマに40点

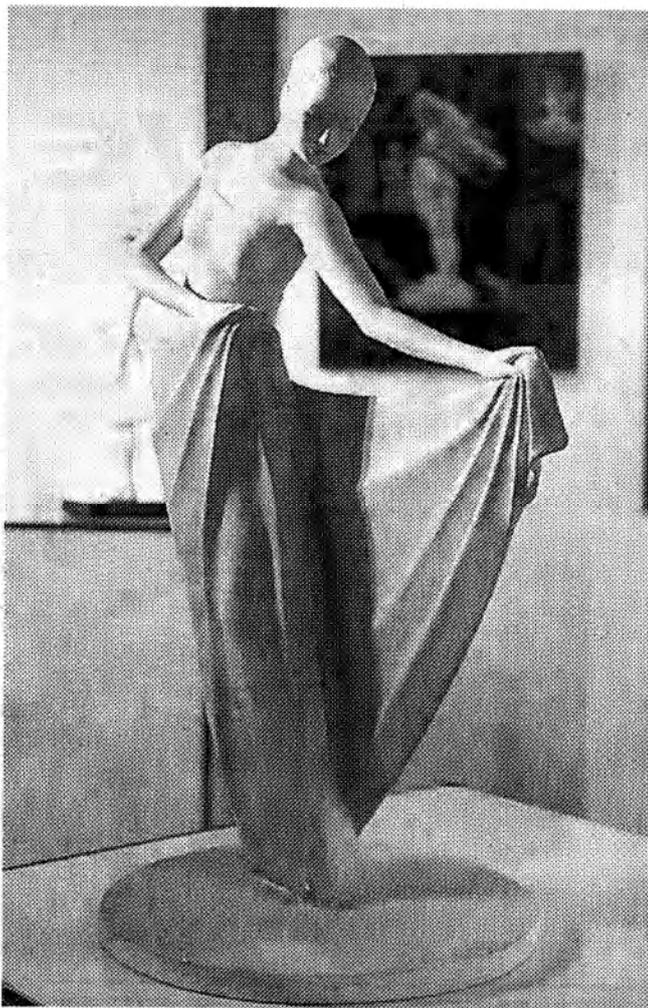
17日まで
長府庭園

下関出身の 人形作家・日高さん

下関市出身の人形作家、日高朋子さん(48)は、茨城県在住の作品展が12日、同市長府黒門東町の長府庭園で始まった。大手時計メーカーのイメ

ーシキキャラクターを手掛け、東京都内のギャラリイなどでの展示会に出品を重ねてきた日高さんにとっては初の個展で、17日まで。

幼いころから美術に興味を持ち、慶応大在学中に紙粘土で人形を作り始めた。結婚、出産を経ても創作意欲は衰えず、茨城大に聴講生として通



日高さんの里帰り個展で披露されている作品「風物語」

い、ブロンズ像にも取り組んだ。その後、41歳でキリの木の骨組みに、おがくずにのりを混ぜた素材で肉付けして和紙を重ねて作る「木芯桐塑人形」と出合った。03年には作品のうち1点が時計メーカー「スウォッチグループ・ジャパン」のイメージキャラクターに選ばれたこともある。

今回披露しているのは、木芯桐塑人形を中心に約40点。テーマは「風・音・光…そして香り」。日高さんは「下関の潮風や汽笛、光などを少女や女性の像で表現した。多くの古里の皆さんに作品を見て頂きたい」と話している。【福島祥】